



フルカラーコミック
Full Color Comic

これから
妹に
迷惑防止の例
違反をします。



adult only



妹 A
列車
Rapid
-快速-

26. 2. 30
原案 ▶ ローライ
E-32a 10:32

26. 12. 30
作画 ▶ らも兄
E-32a 10:33



.....
?

ん...

?!

ん

チカ...
...
...?
...

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

この電車は
準急・△沢
行きです。

お客様に
ご案内いた
します。

次の
停車駅は

新聞







あぁあぁあぁ

んんんんんん

あぁあぁあぁ

んんんんんん

お客様に
ご連絡いた
します

の停車
の、終点まで
各駅に停車し
まいます

は...
ん...

お急ぎの
方は降りま

急行列車を
ご利用くだ
さいます

番線ナ

←15ページ(各駅)に続く

痴漢電車男

今日の亜美は少しだけ寝坊してしまった。あわてて飛び起き、制服に着替えて居間へ行く。兄のヒロシはすでに朝食を終えたのか、ソファに腰掛けて寛いでいるようすだった。

「あっ、お兄ちゃん、待って・・・」
兄を呼び止めようとした亜美だったが、ヒロシはまるで無反応。そのままカバンを持って先に出て行ってしまった。

いつも一緒に登校してるのに・・・
寝坊した自分が悪いのだから仕方ない。亜美は悄然と独りで登校した。

放課後、校門前で兄の帰りを待っていたのだが、ヒロシの姿は見えない。しばらくして、亜美は兄が先に帰ったと悟った。

今日のお兄ちゃん、なんかヘンだった。いつもはもっと優しいのに・・・
うつむき加減で亜美は帰路を急いだ。普段と同じ電車に乗る。夕刻のラッシュアワーに巻き込まれて、車内は相当な混雑状態だった。

乗車してすぐに亜美は異変に気付いた。何者かが亜美の下半身をまさぐっているのだ。
えっ？ 痴漢？

それは初めての異様な体験だった。あきらかに男と分かる大きな手が制服の上から亜美のお尻を触っていた。びっくりした亜美は固まったように動けない。それを好機と捉えたか、男はますます大胆に亜美の躰をいじくりはじめた。

背後に密着して制服とブラジャーの隙間から手を入れ、生乳を揉み回す。

「やっ、やめ・・・」

亜美は必死になって男の手首や袖口を押さえようとしたが、叶わなかった。
続いて、男はスカートをたくし上げた。

ちょうど電車のドア付近に亜美を押し付けるかたちで背後より痴漢行為を働いているから、他の乗客からは死角になって見えない。そして亜美自身も狼狽と戦慄に支配されて、真後ろにいる男になされるがままだった。

男はほくそ笑みつつ、亜美のパンティをずり下げた。真っ白なお尻が車内で露出する。

イヤッ！ ダメえ・・・

あまりの羞恥に亜美は頬をほんのりと赤く染めて、いつ終わるかもわからぬ凌辱にただただ黙って耐え忍んでいた。だが悲鳴を上げるといふ選択肢はなかった。そんなことをすれば、お尻をムキ出しにしている恥ずかしい姿があらわになってしまう。

小刻みに震えて動けずにいる内気な美少女は痴漢にとって格好の獲物だった。男は両手で亜美の尻たぶをむんずとつかむと容赦なくそれを左右に押し開いた。

ヒッ、ヒイイッ！

亜美にとってそれは想像したことすらない恥辱に満ち満ちた姿態に違いなかった。一歩間違えれば、衆人環視の中で性器と肛門を晒すことになるのだ。しかも男の手によってそれらはいえなかったかたちに扱われている。男は抵抗できない亜美のようすに嗜虐心を刺激されたか、背中を押し下げ、お尻を持ち上げて、ことさらに秘部が丸見えになる工夫までした。

「やあああああ……」

かすかに悲鳴混じりの吐息を洩らした亜美だったが、それ以上の反応はありえなかった。

媚肉と菊門の奥まで念入りに鑑賞した男はそれに満足したのか、続いていよいよ電車内痴漢行為の最終局面に突入していった。

勃起して灼熱しきった男の肉棒がその剥き身を現した。

あつ、あああ……こんな……ところで……

亜美は瞳を涙で曇らせ、精いっぱい首を振って

変態的な性行為を拒もうとしたが、男には通用

しなかった。

先端から歓喜の涎を垂らし、赤紫色の怒張

が亜美の可憐な花びらに迫ってくる。

んあああ……

龟头に続いて肉茎が一気に柔らかな膣を

貫いた。容赦のない生の抽挿がリズムカ

ルに繰り返される。電車の振動と男

の腰の動きが妙にシンクロして、

亜美の躰にかつてなかった衝

動を与えた。

そのときだった。

「次は○○、○○、どなた様

もお忘れ物のごさいませんよ

う、お降り願います——」

車内放送が響いた。あと数

刻のうちに電車は停車する。

車窓からプラットフォームが見

えた。亜美がいる側と反対の

扉が開くらしい。



か
ん

にゅっ!





男の動きに烈しさが増した。フィニッシュが近いのだろう。

「ウオツ、オオオオオオ——ッ！」

扉が開く一歩手前で、男は肉欲に染まった樹液を亜美の体内に存分に注ぎ込むと、すばやく股間のチャックを閉めて乗降客に混じり、電車を降りていった。後に残された亜美は茫然自失の体(てい)。辛うじて手すりにつかまり、その場にしゃがみこむことを避けるだけで手一杯であった。膣(なか)からあふれ出た精液が内腿を伝い、やがてポタポタと床に落ちたが、気付く乗客はいなかった。

虚ろな表情で帰宅した亜美に対して、先に帰っていた兄ヒロシの言動は冷たいものであった。

「見損なつたよ、亜美——」

開口一番、ヒロシはそう告げた。

「ボクはあの電車に乗っていたんだ。見ていたよ。痴漢に抵抗もせず、受け容れるさまを……」
その言葉を聞いたとたん、亜美はキツと表情を締めた。つかつかとヒロシに歩み寄るや、その腕を引っ張り上げた。

「あれ、お兄ちゃんでしょう！」

「朝会つたとき、袖口のボタンが外れかかっているって言おうとしたのに、お兄ちゃんはさっさと出て行っちゃつて……」

「帰り道、チカンに遭って、袖口をつかんだとき、『あつ！』って思ったの」

一呼吸置いて、

「……お兄ちゃんだから、許したんだからね。他のひとだったら絶対に……」

亜美は少しだけ涙ぐんでいた。

ヒロシがそつと亜美を抱いた。

「ごめん、亜美、ごめん……。亜美が可愛いすぎて、思わず困らせてみたくなつたんだ」

「……でも、電車で必死に堪えてる姿はたまらなかつたよ。あのときたっぷり出したのに、また亜美としくなっちゃつた」

「お兄ちゃん——」

兄に抱きしめられた亜美はすべてを赦していた。

《あらすじ》偶然、兄の部屋で見つけた日記。こっそり読んでみたら、Aという架空(?)の妹が日記の中で兄との肉欲の日々を送っているのだった…。

妹A日記 - それから -

らも姉

Boa tarde Qual (Como) e' o seu nome?
Meu nome e' Prazer em conhece-lo

禁断の關係がバレて (英国ではなく) アフリカへ留学したヒロシ

(→何語かも分からない)

ニホン! スシ! コニー! チーワ!

なんとそこへ運命的な出会い...! 日本に留学した経験のある金髪の同級生がツツツ

おお!? おお!

「ヤラナイカ」 ヒロシー

オレ、セメ、ウケ、オマエ

お

(ジャクリーンではなく) ジャン ♂ (20)

ジャンの超熱烈なアタックは連日続いた。

はたしてHは帰国まで貞操を守りきれぬのだろうか?!

お兄ちゃんはお兄ちゃん

何処?!

超くりいむ レモン Part1 Be my baby / (スラッシュ)

おのれえ... ヒロシのくせにイ...?

ええーと 〇月×日...

妹を好き勝手する妄想日記に対抗して「兄H日記」を書いてみる亜美

わたし亜美。Hっていうお兄ちゃんがいいます。でも、血はつながってないの。

《中略》

ドアの音に驚いた亜美。バスタオルがはらりと落ちて生まれたままの姿の妹を、Hは強引に抱き寄せた。「ダメツ...お兄ちゃん」

王道か...

《中略》

「亜美、飛んでっちやう...ッ」

初めてだというのに二人同時に絶頂へ。Hはさらに妹を求め、彼女もそれに応じようとした、そのとき...

「亜美ちゃん、どうしたの! ドン! ドン! ドン!」

「ここを開けなさい!!」

「...というわけで」 お兄ちゃんはお兄ちゃん

サントメ・プリンシペ 民主共和国

へ留学させられることになりました

何処?!

北緯0度0分、東経6度31分。

Camous | M7 | 30





うん...

続きを
しても...
イイ?



お願いが
あるんだ



で...
ね、
亜美

な...



ん...



ん...

ん...
ん...



あ...

痴漢
犯罪
おちんぴち
おちんぴち
おちんぴち





まもなくー
大▲●ー
▼久■ー
お出口は
左側です。



ガシヤッ!



ドアが
閉まります。
↑注意
ください。

救しくしたら
タメ…なんだ
からね…?

お、
お兄ちゃん
あんまり…

おウチじゃ
ないんだから



ん...っ



ん...っ

ん...っ



やだ...
モテ...

やや.. かん!♡



?

あ、
亜美...ッ



あ

ん
ん
ん

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ

あ
あ



お兄...
ちゃん...

そんっ...なん
動いちや

あ...

あ

あ

もう
ちよっし...
だから...ッ

あ

も...
う...
ちよっし...

あ

あああ



ああッ
亜美イ

おめい
の
おめい

おめい

あ

おめい

あ

おめい

おめい
ちゃん

おめい

おめい



んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

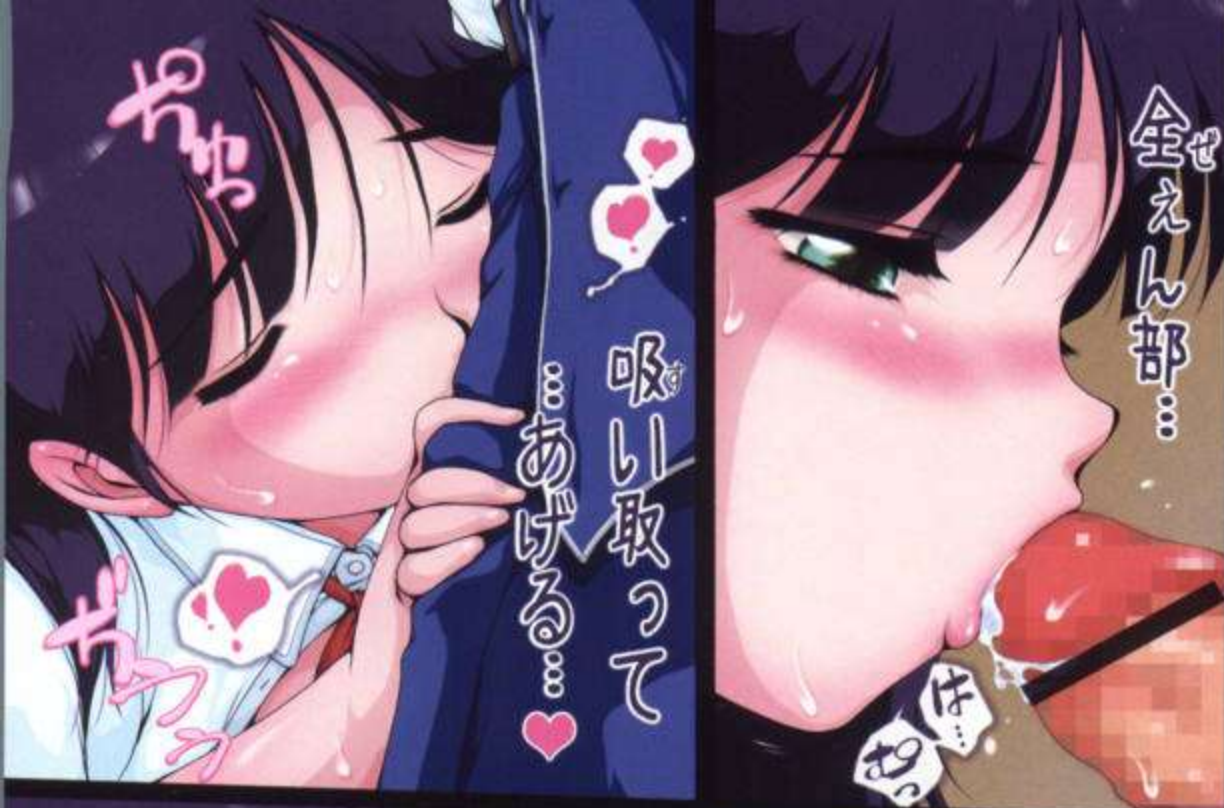
んぐんぐん

んぐんぐん

最後は...ズ...
くち
口で...だよ...

う...ツツ
はア...
はア...
はア...
さあ...あ
亜美...





吸い取ってあげる...

全えん部...



ん...

おっ...

おっ...



ん...

(満員電車) 6月20日



お兄イ...
ちやん

...お兄ちゃん、また...
出ちやいそおでしよ...?

...亜美が...

6月20日
(満員電車)

《中略》
つい調子にのって
お願いしたけれど
Aも機嫌を直して
くれたみたいだ。

今日も…
いっぱい
出たね…♡

しかし今後、僕も
妹も屋外でする
のがクセになっ
てしまったらどうしよ

ふむ、

……

本棚に
隠されて
いた兄の
秘密日記
※「妹A日記」参照

ただいまー
なんだ亜美
帰ってるの
ー？

お兄ちゃん
おかえり
なさいい

Please do not disturb
HIROSHI

197



朝の台 武口 線
です。ご利用のお客様は
お乗換え下さい。



いつもより混むなア

うん...

そだねっ



お尻でもカユイの亜美?

こっち向きだったかな...



お出口は—
かわりまして
左側です。

座席はお互いに
譲り合って
おかけ下さい。



お兄ちゃん
日記の中では
あんなに H な
妄想してるのになあ...

えっ

お客様にお願い
いたします。車内
優先席付近での
携帯電話等のご使用

CONTENTS

姉A列車 -快速-

らも兄 …P4

痴漢電車男

ローラリ …P9

姉A日記 -それから-

らも姉 …P14

姉A列車 -各駅-

らも兄 …P15

あとがき

長く同人サークル活動を続けてきましたが、実は千かん本を出したのはこれが初めてのケースとなります。サークルにはそれぞれ特色があり、もしオーバーコッペンに特有のカラーがあるとするなら、それはおそらく「くりいむレモン、SM、緊縛、調教」といったフレーズに属するのではないのでしょうか。近年はそれに「姉萌え、近親相姦」が加わりました。確かにこれらは本サークルを構成する重要(?)な要素ですが、今後はそういったカテゴリにとどまらず、さまざまなジャンルに挑戦しようと思っています。

という舌の根も乾かぬうちに(笑)、次回作にはあの“史上最高のSお姉さま”が登場の予定です。いわゆると知れた十オミお姉さまです。そしてこれも初となる試みですが、作品間の垣根を越えて、亜美と十オミお姉さまが相まみえます。亜美×エスカレーション、禁断の旋律にご期待ください。

ローラリ

2014年12月30日 発行

著者 ローラリ らも兄

発行者 ローラリ

発行 オーバーコッペン

印刷 太陽出版

e-mail postmaster@oberkochen.sakura.ne.jp

URL <http://oberkochen.sakura.ne.jp/rollei/>

<http://dhicool.sakura.ne.jp/yakilemon.html>

NEXT 妹 A ○ ○



N お姉サマです。エスカレーションの物語は僕にはムリそうなので、こっちでゲスト出演して頂く予定。ただし予定は未定…というより、もしかしたらやるかもしんない的なニュアンスでお願いします。鞭の使用は検討中です。

らも兄



かけこみ乗車はキケンです!
JR

犯罪
法により厳しく罰
見かけたら温かく見
不審な
でも
こはイイかも

Presented by OBERKOCHEN
with 焼きレモン ROAST LEMONS



Copyright © 2004 OBERKOCHEN